

IEC News

No. 53
Dec. 2025

ボランティアの皆さん

国際ふれあいフェア 2025

開催日の10月12日（日）は、前日の雨とは打って変わって少し歩くと汗ばむ陽気となり、浦和駅東口駅前市民広場には幅広い年齢層、特にお子さん連れの方々が多く来場しました。人気のスタンプラリーでは、埼玉県警の白バイに乗車し写真を撮る企画に今年も長蛇の列ができ、浦和区役所のブースではさいたま観光大使の浦和うなこちゃんとの微笑ましい触れ合いの姿が見られました。ふれあいコーナーの缶バッジ・ハンドペイント・ピニャータやピンザテイルなどのゲームは、ボランティアの高校生大学生が運営に携わり、子どもたちの歓声が上がっていました。JR駅構内の新企画書道体験では、来場者が思い思いの字を書いて楽しみました。

ステージは恒例のベリーダンスから始まり、子供コーラスは楽しそうに歌う姿と澄んだ歌声がたくさんの観客を呼び込み、エイサーは会場を琉球ムードに変え、「唐船ドーイ」で観客を巻き込み一体となって踊る姿が印象的でした。サンバは‘GOLDFINGER’99（‘ゴールドフィンガー’99）の曲で子どもたちをどんどんステージに招き入れ、ダンサーと一緒に輪になって踊る大団円で幕を閉じました。会場を包み込んだ様々な国の音楽は、国際交流を象徴するものでした。



市長の法被の裏には



ステージラストを飾るサンバ



子供たちの歌声にひかれて



スタンプラリーには子どもたちの列が



沖縄エイサーの迫力



書に親しむ JR 浦和駅での書道体験



今回は
有川 智子さんを
取材しました。



▲本人
教室の受付でバチリ



▲正月着付け体験会で皆さんと一緒に

外国人に教えている
本人▶



▲空手道場の大会
で形競技に出場



◀学習2回修了の
クリスさんと記念
ショット



大好き! SAITAMA さいたま



沼尻 笹歌さん (中国)

在日三十数年、中国広州出身で
祖母が日本人の沼尻笙歌さんに、
さいたまや日本の良さ、印象に残つ
た出来事などのお話を伺いました。

沼尻さんは、広州の中山大学で
日本文学を専攻し1987年来日。中
国語、日本語、英語の高い語学力
を武器にホテルのコンシェルジュ
などに携わり、1993年に浦和出身のご主人と結婚。夫婦で
行く旅行、コンサート、観劇や、北浦和の自宅の家庭菜園など
趣味を楽しむ一方、現在も語学力を生かして、中学生の英
語対策や学習塾のお手伝いなど多忙な日々を送っています。
国際交流センターでも、簡易生活相談の事業スタッフに加え、
広い交友関係を生かして“にほんごおしゃべりサロン”に中国人
の知り合いの方を紹介するなど、国際交流を多方面からサ
ポートされています。

●さいたまの良さ：

教育に対する意識が高く、小学校から大学までレベルの高
い学校が揃う文教地区で、質の高い教育環境の下で子育てが
しやすい。



▲外国人生活相談デ
スクで対応している
本人

自宅周辺は公園や図書館など公共施設が充実し、庭のある
家も多く、自然豊かで緑の多い住みやすい環境。

都内への交通の便がよく、ショッピングも便利。特に食事
に関して世界各国の料理店が揃っていて、いろいろな料理を
楽しめる。

●印象に残った出来事：

来日間もない頃、日本人の友人と初めて温泉に行ったが、
広州では裸で他人といっしょにお風呂に入る習慣がなく、恥
ずかしくてめまいがしてきた経験がある。日本のお風呂文化
はカルチャーショックだった。

スイス留学中の息子に夫婦で会いに行った時、現地の友人
に日本の食文化を紹介するためホームパーティーを開き、手
作りのちらし寿司、おいなり、麺類を提供し、大変喜ばれた。
海外でブームの抹茶（狭山茶）も日本から持参してふるまつ
た。

●好きな食べ物：

浦和のうなぎは有名で大好きだ
が、一番好きな日本料理はお寿司。
当時の広州ではナマモノを食べる習
慣はなかったが、来日して最初にお
寿司を口にした時から好きになり、
毎日のように回転寿しに通った思い
出がある。

●今後に向けた思い：

これからも、自分の趣味を楽しみ
つつ、人の役に立てることをやつ
ていきたい。そうすることで、国や地
域相互の理解が深まり、楽しく交流
していけると思う。

大好き
ニッポン!



▲スイスで手作りした
ちらし寿司
スマーカサーモンにア
ボガド、海苔を散らし
て美味しい!

ミニ講座

✈>>>ミャンマーの暮らしと文化



10月18日（土）ぶらっとサロンにて、ミニ講座を開催しました。
今回の講師はミャンマーからの留学生、ワイ ヤン ヘインさんです。



▲講師ワイ ヤン ヘインさん

▼講座の様子



◀講師の温厚さが伝わります



浦和おどりに外国人のみなさんが積極参加！！

9月23日に恒例の浦和おどりが開催され、外国人*のみなさんが飛び入り連に参加しました。ロイヤルパインズホテル前からさくら草通りまでの旧中山道沿い約400メートルの間、黒山の人だかりの観客の前を踊りながら進みました。「飛び入り連」への参加は2年目ですが、ユース国際ボランティア活動の日本の若者たちも一緒に19の国からおよそ40人超の参加があり、大人気となりました。

市内在住・在勤・在学の外国人の参加募集をしたIECでは、参加者の服装は自由とし、希望者には浴衣を用意しました。さらに、踊りを事前に練習する場所も設け、参加者が本番に溶け込んで踊りやすくなるように段取りしました。

いつか自国に帰って振り返るとき、浦和おどりを通じて各国の人たちと交流したこの数時間はきっと忘れられない思い出としてよみがえることでしょう。



会場に向け
出発前の皆さん集合



おどり本番スタート

沿道で太鼓に合わせて
踊り進む



*ウクライナ、ミャンマー、ベトナム、ロシア、インド、エジプト、セルビア、ナイジェリア、パキスタン、スリランカ、インドネシア、ドイツ、ブラジル、フィリピン、コスタリカ、キューバ、コンゴ、ネパールの国の人たちが集まる

日本語国際センター交流会

世界中で日本語を教えている外国人教師とさいたま市民の交流会を、10月28日北浦和の日本語国際センターで、開催しました。

国際交流基金日本語国際センターで研修中の外国人教師63名、市民応募参加者26名とボランティアスタッフ16名が参加しました。

冒頭あいさつのあと、外国人教師へのゲーム開始。

第1問の「東照宮は700以上存在したか？」の難しい質問に○と答えた正解者が23名だけとなり1問でゲーム終了。正解の外国人教師には、着物、浴衣、羽織が用意され、素晴らしい着物を見て歓声が上がり、盛り上がりました。

ゲームのあとは10グループに分かれ、途中市民参加者が席を替えて、グループの外国人教師全員と話すことができた有意義な歓談でした。

今年は参加者から提供された日本伝統のこけし人形が全員に贈られ、最後に「ふるさと」を参加者全員で合唱して、日本と世界文化をつなぐ素晴らしい交流会となりました。



▲クイズで笑顔と活気に溢れる参加者



▲クイズ正解者へのサプライズ！



あちこちで会話が弾み、たくさんの笑顔▲

▼参加者同士の歓談



2026年イベント・講座予定情報

1月18日（日）2026着物着付け体験会

1月20日（火）市民のための「やさしい日本語」講座

1月30日（金）語学講座（後期）韓国料理講座

2月 7日（土）第24回さいたま市外国人による日本語スピーチ大会

2月21日（土）ミニ講座「イギリス」

3月22日（日）日本語ボランティア養成講座「経験者編」

*予定は変更になる場合があります。
最新の情報はHPでご確認ください。



編集後記



一年があっという間に過ぎ、年を追うごとに四季感が薄れ、このまま温暖化が進むと日本は二季になるのではないかとも言われています。そんな変化著しい中でも、IEC NEWSは、国際交流の変わらない楽しさや、国際交流センターの活動をお伝えしていきたいと思っています。

皆様、良い年をお迎えください。

編集委員一同



春夏秋冬



公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9F (JR浦和駅東口 浦和パルコ上)

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL <https://stib.jp/international/>

